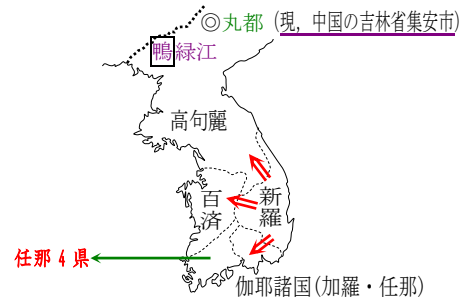


	国内・対外関係	古墳文化
4世紀	369年 奈良県石上神宮七支刀(石上神宮[物部氏の氏神]に所蔵されている) (泰和4年) 百済の肖古王が倭王に贈った、表裏に金文で61文字の銘文がある鉄剣 391年 朝鮮出兵(目的=朝鮮半島の先進技術と鉄資源の獲得のため) (辛卯の年) 百済・新羅・加羅に侵攻してきた高句麗の好太王(広開土王)の軍に敗れる in「高句麗好太王碑文」(子の長寿王が高句麗の都の丸都に建立) 高句麗が朝鮮半島南部に勢力を伸ばさないよう、高句麗を牽制 →南朝に朝貢して、朝鮮半島南部における倭の支配権を求める	「渡来人の来日(応神天皇期の5世紀初め)」 弓月君(秦氏の祖) ★養蚕・機織りを伝える 阿知使主(東漢氏の祖) ★東漢氏と西文氏は東・西 主仁(西文氏の祖) ★史部(文筆を担当)を管理 ★『論語』・『千字文』(識字・習字テキスト)を伝える 儒教の經典
5世紀	5世紀 倭の五王が南朝の宋へ遣使 in『宋書』倭国伝 目的=朝鮮半島南部をめぐる外交・軍事上の立場を有利にするため 421年 倭国王讃(仁徳天皇・仁徳天皇・履中天皇)が宋に遣使 438年 倭国王珍(仁徳天皇・仁徳天皇)が宋に遣使 443年 倭国王済(允恭天皇)が宋に遣使 462年 倭国王興(安康天皇)が宋に遣使 478年 倭国王武(雄略天皇)が宋に遣使 (順帝の昇明二年) 宋の順帝から6国の軍事的支配権を持つ「安東大將軍倭王」に叙任される →以前から南朝に朝貢し、軍事的支配権を認められていた百済は除かれた ※北朝に朝貢していた高句麗は初めから含まれていない	「ヤマト政権の支配拡大」 熊本県江田船山古墳出土鉄刀 无利豆が「獲口口口大王」に典曹人として仕える 埼玉県稻荷山古墳出土鉄剣(471) (辛亥年) 平獲居臣が「獲加多支酋大王」に杖刀人首として仕える ★「獲加多支酋大王」→雄略天皇に比定される ヤマト政権の支配地域が九州～ 関東まで及んでいたことを示す 和歌山県隅田八幡神社人物画像鏡(503?) 銅鏡に48字の銘文を記す(即位前の継体天皇時?)
継体	507年 継体天皇が即位(武烈天皇の死後、大伴金村[大連]が越前から迎える) ★6世紀以降、国家体制を固めていった新羅が高句麗・百済・伽耶へ勢力拡大 512年 大伴金村[大連]が任那(伽耶諸国)4県を百済に割譲 百済に援軍を送れる状況ではなかったので加羅の一部をあげた ★のち、物部尾奥から賄賂を受け取っていたことなどを糾弾され失脚(540) 527年 磐井の乱(新羅と通じていた磐井[筑紫国造]が起こした反乱) 近江毛野を将とするヤマト政権の任那救援・新羅征討軍を阻むため反乱 →物部鹿火が鎮圧(福岡県の岩山古墳は磐井の墓と推定される) ★平定後、ヤマト政権は各地に屯倉、子代・名代を設置	513年～百済から五経博士が来日(儒教の伝来) 6世紀に ★五経=「易経」「詩経」「書経」「礼記」「春秋」 儒教伝来 →のち、易博士・暦博士・医博士も来日 522年 司馬達等が私宅で仏像を礼拝(仏教私伝) in『扶桑略記』(皇円が著した歴史書) ★司馬達等の孫は鞍作鳥(正利仏師)
欽明	562年 新羅により伽耶諸国(加羅・任那)滅亡 〔崇仏論争〕 (崇仏派) 蘇我稲目[大臣] VS (排仏派) 物部尾奥[大連] ↓ 渡来人と結びついていた 蘇我馬子[大臣] VS 物部守屋[大連]	〔仏教公伝(6世紀)〕 百済の聖明王が欽明天皇に仏教を伝える 538年(戊午)説=『上宮聖徳法王帝説』 『元興寺縁起』 552年(壬申)説=『日本書紀』
敏達		
用明	587年 丁未の乱(蘇我馬子が物部守屋を滅ぼす) 用明天皇(厩戸王(聖徳太子)の父)の死後、皇位継承争いをめぐり対立 →戦後、厩戸王(聖徳太子)は難波に四天王寺・蘇我馬子は法興寺(飛鳥寺)を建立	
崇峻	592年 蘇我馬子が崇峻天皇を暗殺(実行犯は東漢直駒) ★石舞台古墳(奈良県)は蘇我馬子の墓と比定される	



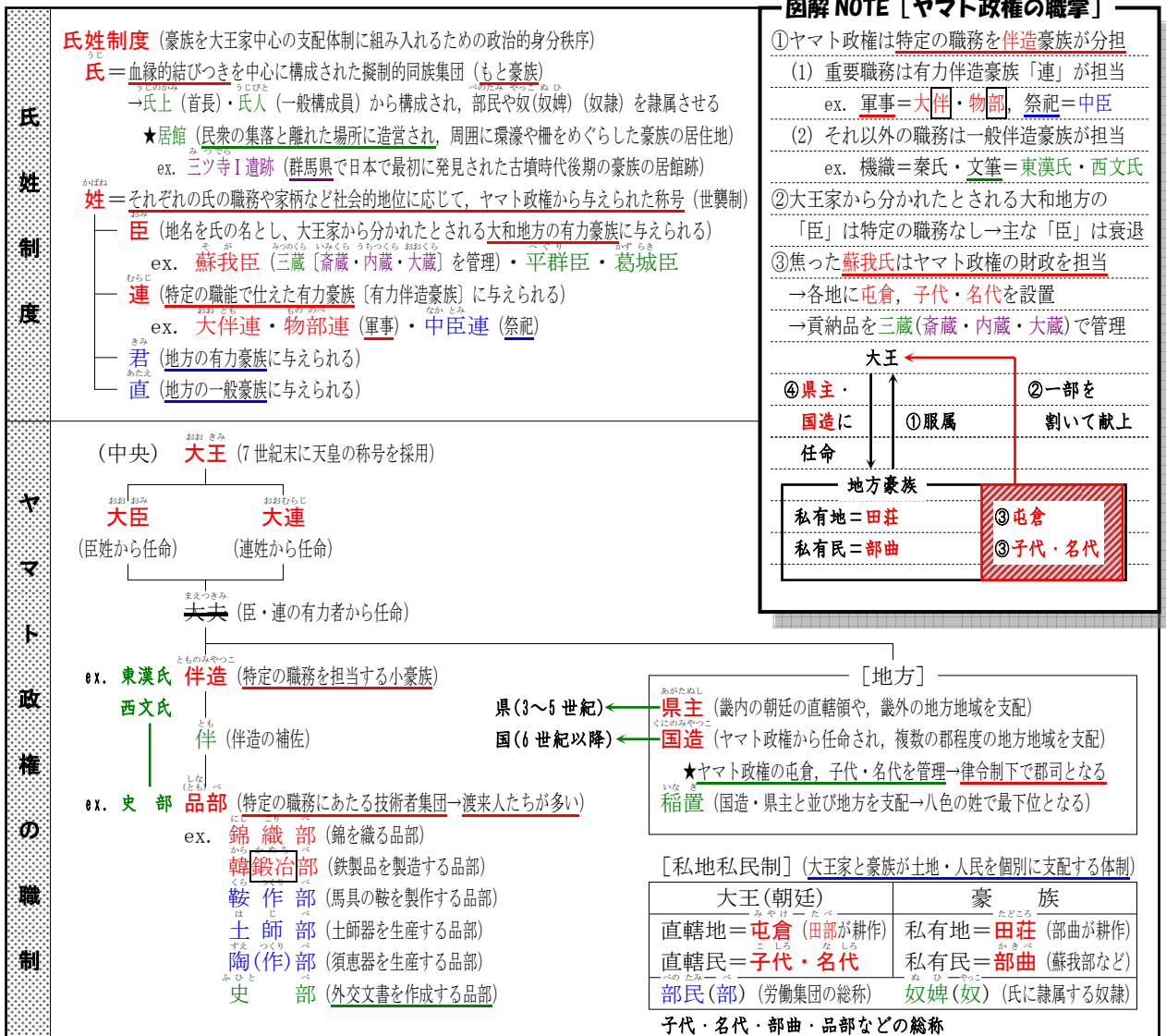
〔社(氏の祖先神である氏神・自然神を祀る)〕

伊勢神宮(三重県)(天照大神を祀る) ★神明造(伊勢神宮の建築様式)
出雲大社(島根県)(大国主神を祀る) ★大社造(出雲大社の建築様式)
住吉大社(大阪府)(海神を祀る) ★住吉造(住吉大社の建築様式)
大神神社(奈良県)(三輪山を神体とする)
宗像大社(福岡県)(沖ノ島を神体とする)
★沖ノ島=玄界灘に浮かぶ島で、海の正倉院と呼ばれる

〔習俗〕

禊(けがれなどを水で清める)・祓(けがれなどを払い除ける)
太占の法(鹿の肩甲骨を焼いて、その割れ具合で今後の吉凶を占う)
盟神探湯(熱湯に手を入れて、火傷の有無によって真偽を確かめる原始的裁判)
祈年祭(春に行う豊作を祈願する農耕儀礼)
新嘗祭(秋に行う収穫を感謝する農耕儀礼)
★天皇即位の年に行われるものを特に大嘗祭という(天武朝から開始か?)

[B] ヤマト政権の政治制度



図解 NOTE [ヤマト政権の職掌]

①ヤマト政権は特定の職務を伴造豪族が担当

(1) 重要職務は有力伴造豪族「連」が担当

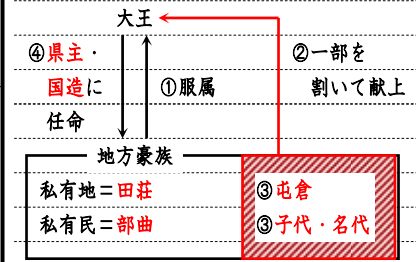
ex. 軍事 = **大伴**・**物部**, 祭祀 = **中臣**

(2) それ以外の職務は一般伴造豪族が担当

ex. 機織 = 秦氏・文筆 = **東漢氏**・西文氏

②大王家から分かれたとされる大和地方的

「臣」は特定の職務なし→主な「臣」は衰退

③焦った**蘇我氏**はヤマト政権の財政を担当→各地に**屯倉**, **子代**・**名代**を設置→貢納品を**三蔵**(倉蔵・内蔵・大蔵)で管理

[地方]

国主 (畿内の朝廷の直轄領や、畿外の地方地域を支配)**国造** (ヤマト政権から任命され、複数の郡程度の地方地域を支配)

★ヤマト政権の屯倉、子代・名代を管理→律令制下で郡司となる

稻置 (国造・国主と並び地方を支配→八色の姓で最下位となる)

[私地私民制] (大王家と豪族が土地・人民を個別に支配する体制)

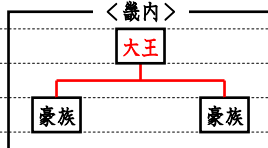
大王(朝廷)	豪族
直轄地 = 屯倉 (田部が耕作)	私有地 = 田莊 (部曲が耕作)
直轄民 = 子代・名代	私有民 = 部曲 (蘇我部など)
部民(部) (労働集団の総称)	奴婢(奴) (氏に隷属する奴隷)

子代・名代・部曲・品部などの総称

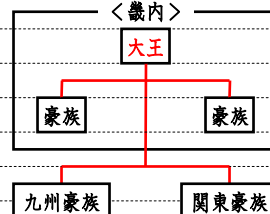
前期 (4世紀)

中期 (5世紀)

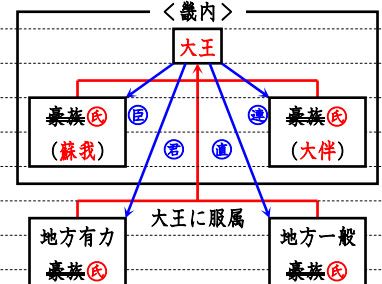
後期 (6世紀)



- ①弥生時代から、武器や農具に加工する鉄資源の確保は豪族にとって必要不可欠
- ②鉄資源の入手ルートは中国→百済・新羅→伽耶諸国→九州北部→瀬戸内・畿内であるため、畿内・瀬戸内の豪族は不利
- ③鉄資源を確保するため、大王家を中心に畿内・瀬戸内の豪族が連合(ヤマト政権)
- ④but...4世紀後半から高句麗が南下政策→高句麗が百済・新羅・伽耶諸国を圧迫
- ⑤鉄資源を確保するため、朝鮮出兵(391)



- ①ヤマト政権の支配地域が九州～関東にまで全国に拡大
 ex. **熊本県江田船山古墳出土鉄刀**
埼玉県稲荷山古墳出土鉄剣
- ②国内の諸豪族の支配を安定させるため、南朝の**宋**に朝貢し**安東大將軍**の称号を賜る



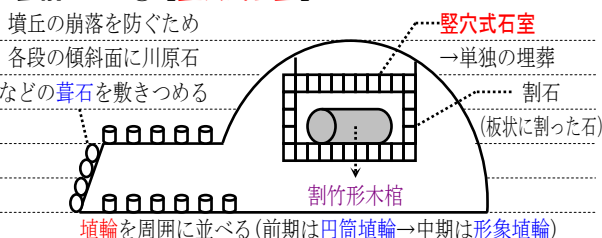
ヤマト政権に各地の豪族が服属

- ①服属した豪族たちはヤマト政権の支配下に組み込まれ**氏**となる
- ②それぞれの氏の家柄・地位に応じて**臣・連**などの**姓**という称号を与える = **氏姓制度** (5世紀後半～)

[A] 古墳の変遷

	前期(3世紀後半～4世紀)	中期(4世紀末～5世紀)	後期(6世紀～7世紀)
支配体制	①大王家を中心に畿内・瀬戸内の豪族が連合したヤマト政権が成立 ②結束のため画一的な前方後円墳を築造	①ヤマト政権の支配地域が関東～九州まで全国的に拡大(古墳が東北地方にも分布) ②特に畿内中央部の勢力が強大化	①大王(ヤマト政権)に各地の豪族が服属 ②農業生産力の向上→有力農民の台頭 →ヤマト政権の支配下に組み込む
地域	畿内中心(丘陵・台地に多い) ★瀬戸内海沿岸にも発生	全国に拡大(平野に巨大な墳墓)	全国に分布(山間にも築造)
形態	前方後円墳(西日本に多い) 前方後方墳(東日本に多い) 円墳(円形の古墳)・方墳(方形の古墳)	規模が巨大化	規模が縮小 群集墳(小規模な円墳の集まり)
埋葬構造	竪穴式石室 ★墳丘の崩落を防ぐために葺石を葺く 粘土槨(木棺の周りを粘土で固める) 円筒埴輪(筒形のものなど) ★土留め・葬列模倣・殉死代用などの説	石室を造らずに木棺の周りを粘土でおおう 形象埴輪(家・動物・人物などをかたどる) ★家形埴輪・器材埴輪・人物埴輪・動物埴輪	横穴式石室(朝鮮半島の影響を受ける) ★内部に羨道(通路)・玄室(棺を安置する室) 横穴墓(丘陵の斜面などに水平に掘る)
埴輪	割竹形木棺	長持形石棺	家形石棺
内部	銅鏡・勾玉(呪術的・宗教的なもの) ★副葬品として碧玉製腕飾(装身具)も出土 →ex. 三角縁神獸鏡(約400面発見) 同範鏡(同じ鋳型で作った鏡) 舶載鏡(中国などで作った鏡) 仿製鏡(舶載鏡を模倣して作った鏡)	武具・馬具(軍事的なもの) ★高句麗の騎馬軍団との戦いで、倭人たちは騎馬技術を学び、馬具が副葬されるようになる cf. 騎馬民族征服王朝説(江上波夫が提唱) →大陸から騎馬民族が九州へ渡来し、近畿へ移動して征服王朝をつくったとする説	日常生活用具(須恵器・土師器などの土器) [土器] 土師器(弥生土器の系譜→赤褐色) 須恵器(朝鮮半島から伝来→黒灰色) ★ろくろを使用し、のぼり窯で焼成
被葬者	司祭者的性格の首長	武人的性格の首長	有力農民の台頭 ★古墳時代に農業生産力が向上したことが背景 ex. 渡来人の伝えたU字型鋤先・鋤先や曲刀鎌など鉄製農具の普及、乾田の普及
代表例	箸墓古墳(奈良県) 纏向遺跡(奈良県)の遺跡内にある 前期古墳の中で最大・最古の前方後円墳 →倭迹迹日百襲姫命が被葬者(卑弥呼か?) 椿井大塚山古墳(京都府) 29面の三角縁神獸鏡が出土した前方後円墳 浦関茶臼山古墳(岡山県) 前期古墳としては中国地方最大の前方後円墳 →ヤマト政権における吉備地方(瀬戸内地方)の権力を象徴	大仙陵(大山)古墳(大阪府)(全国1位) 百舌鳥古墳群の中心で仁徳天皇陵とされる 誉田御廟山古墳(大阪府)(全国2位) 古市古墳群の中心で応神天皇陵とされる ミサンザイ古墳(大阪府)(全国3位) 百舌鳥古墳群の一つで履中天皇陵とされる 造山古墳(岡山県)(全国4位・中国地方最大) 作山古墳(岡山県)(全国9位・中国地方2位) 太田天神山古墳(群馬県)(全国27位) 東日本で最大の前方後円墳	岩橋千塚古墳(和歌山県)(群集墳) 新沢千塚古墳(奈良県)(群集墳) 吉見百穴古墳(埼玉県)(横穴墓) 藤ノ木古墳(奈良県法隆寺の西にある円墳) 金銅製の服飾具・精巧な馬具などの副葬品が出土 装飾古墳(墓室に彩色画・彫刻を施した古墳) 高松塚古墳(奈良県)・竹原古墳(福岡県)が代表
終末期古墳	646年 薄葬令(大化の改新に際して、身分に応じた墳墓の大きさ・築造日数を定める=墳墓の築造を簡素化) 薄葬令により巨大古墳が禁止されたこと、仏教の伝来により火葬が一般化、寺院や仏院が豪族の権威の象徴となったため、以降古墳は衰退 →終末期古墳(7世紀後半～8世紀にかけての特殊な古墳) ex. 石舞台古墳(蘇我馬子の墓?)・高松塚古墳・キトラ古墳・酒船石遺跡(斉明天皇期の遺跡)(全て奈良県明日香村(飛鳥の中心地域)で発見) 八角墳(7世紀後半の正八角形の古墳で、御園野古墳(京都府の天智天皇陵)・野口王墓古墳(奈良県明日香村の天武・持統天皇陵)が有名)		

図解 NOTE① [竪穴式石室]



図解 NOTE② [横穴式石室]

